

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成20年7月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2871200503
法人名	社会福祉法人三翠会
事業所名	薬師のさと
所在地	三田市下相野1460-1 (電話) 079-568-0894
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号
訪問調査日	平成20年6月19日

【情報提供票より】 (20年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤5人, 非常勤10人, 常勤換算13.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,800 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要 (5月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	6	要介護 2	2		
要介護 3	9	要介護 4	1		
要介護 5		要支援 2	0		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田クリニック・青空クリニック・三田高原病院・平島病院・吉原歯科
---------	----------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた施設はご利用者の尊厳と職員の間人形成を理念に掲げ職員は日々自己研鑽に励み、家庭的な環境づくりの中で利用者の自立支援を行っている。落ち着いた色調でゆったりとした雰囲気の共有空間は花や絵画を飾り、広いガラス窓から自然光が差し込み温度調整・換気への配慮がなされている。ホームでの生活の流れは日々の生活の中で決まった計画は作らず、本人のペースで日常生活が送れるように支援している。食事場を初め生活風景の中で、利用者が穏やかに過ごされている雰囲気が感じられる。健康管理については定期的に往診を受け、適切な医療が受けられようになっており、利用者ごとの往診記録も整備されている。認知症専門医とは必要時相談できる体制があり、併設施設の看護師の協力により健康管理も行き届いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 評価結果は、職員へ開示している。改善に向けての指摘事項は、月1回のフロアー職員会議で管理者から報告している。推進会議にも報告しているが報告のみで実行に至っていないが、計画的に評価を活かし質向上に向けての取り組みの必要性を感じている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 今年度の自己評価はフロアー毎に、日々の業務を振り返りながら作成したものを管理者が確認し、まとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 推進会議は、家族2名、利用者代表・有識者(評価委員、民生委員)参加のもと2ヶ月に1回実施している。7月の運営推進会議では評価で指摘を受けた部分についての報告と取り組みを明らかにする予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) 玄関正面に意見箱を設置して苦情・意見の収集に努め、サービスに反映させる姿勢がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 近隣に民家は少ないが、3階に共有スペースをとり「ふれあいホール」として、季節行事・花見、納涼大会、保育園児との交流など地域へ開放している。地域の方が頻りにホームへ訪れ、ふれあいホールで交流の機会を持っている。立地条件的に地域へ出向くことが難しいが、地域行事には参加している。また併設の特養・ケアハウス・デイと頻りに交流を持っている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者個々の尊厳の尊重と職員の自己啓発を織り込んだ法人理念を掲げているが、地域との連携の明文化を検討中である。		「家庭的な環境のもとで安心して過すことを目指す」法人理念を基に、地域交流の思いを言葉としてホームの運営理念に盛り込まれることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体の理念をスタッフでより具体的な目標として掲げ法人全体の研修会で再確認している。管理者・職員は利用者が地域の中で安心した暮らしを継続していくための地域との交流の重要性を認識している。		理念を浸透させるには、理念を明らかにすることが必要であり、運営者・管理者の思いを明文化し浸透させていくことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家は少ないが、3階に共有スペースをとり「ふれあいホール」として、季節行事・花見、納涼大会、保育園児との交流など地域へ開放している。地域の方が頻繁にホームへ訪れ、ふれあいホールで交流の機会を持っている。立地条件的に地域へ出向くことが難しいが、地域行事には参加している。また併設の特養・ケアハウス・デイと頻繁に交流を持っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果は、職員に開示し、改善に向けての指摘事項は、月1回のフロアー職員会議で管理者から報告している。推進会議でも報告しているが、改善について実行には至っていない。今年度の自己評価はフロアー毎に業務を振り返りながら作成したものを、管理者が確認し、まとめている。評価を活かした、質向上に向けての計画的な取り組みの必要性を感じている。</p>		<p>評価結果を踏まえ、優先順位をつけ職員全体で改善可能なところから計画的に取り組まれる事を期待する。評価結果報告書を訪問した家族が見やすい場所に置き開示される事が望ましい。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進会議は、家族2名、利用者代表・有識者(評価委員、民生委員)参加のもと2ヶ月に1回実施している。7月の運営推進会議では評価で指摘を受けた部分についての報告と取り組みを明らかにする予定である。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市職員の参加があり、施設長が認定調査員として市に出向く際、特養を含めて情報を提供するなど連携を行っている。また、三田市職員の協力を得てグループホーム連絡協議会立ち上げを行った。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時や電話で、入居者の日常生活・心身の状況の情報提供を心掛けている。また毎月1回行事予定を知らせると共に一人ひとりの生活状況・健康状態・コメントを記載し、写真を添付をした報告書を送付している。状況の変化についてはその都度家族に連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関正面に意見箱を設置して苦情・意見の収集に努め、サービスに反映させる姿勢がある。</p>		<p>日々家族と接する中で、些細な話の中でも苦情や要望をすばやく捉え、意見・要望・苦情について職員全体が共有し、対応・改善する取り組みを期待する。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設後3年を経過し、職員の定着率も上がっている。職員の状況に応じた勤務調整・施設長が職員面接を行い職員の意見を聞く機会を持つなど離職が利用者へ及ぼす影響を最小限に抑える努力をしている。また、法人が補助を行い日帰り、宿泊研修旅行など福利厚生も図っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体の研修員会があり年間研修計画に基づいて定期的に研修を実施している。グループホームでも同じ研修内容で月2回実施し、全職員が受講できるように配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会は現在まで2回実施されており、今後も3ヶ月に1回実施していく計画がある。</p>		<p>連絡会の中で職員の交流や情報交換会・研修などの実施を期待する。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用申し込み時に家族・本人と共にホーム見学をしていただき、十分話し合い納得して入所していただいている。体験入居は実施していないが、本人・家族から十分情報収集を行い対応している。入所直後は在宅で関わっていたケアマネの訪問を依頼し、環境の変化に伴う認知症への弊害を避けるための配慮をしている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご利用者と職員が日常生活行動を共にする中で、ご利用者の状況や背景をより深く理解し利用者ひとり一人のできること・不得意なことを把握し、自己決定を促しながら利用者・職員が共に支えあっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の生活暦から入所前の暮らしを把握し、自己表現ができる方に関しては声かけして把握しているが、自分で訴えられない利用者に関しては日々のケアで関わっていく中で、思いを汲み取り把握するようにしている。随時カファルスを実施し全職員で情報を共有するように努めている。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族から入所までの暮らしぶりの情報を収集し、入所後の希望・要望を聞き取り、ケアマネージャー・管理者・担当職員で話し合い、ケアマネージャーの計画を基に介護計画を作成している。</p>		<p>ケアマネージャーのプランを基に、介護職員が日常的に把握した利用者の状態・希望をまとめ、支援の方法を話し合い、利用者個々の個別具体的な計画を作成することが望まれる。計画書雛形送付</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別記録に記載された情報を基に利用者の状態・変化を定期的に見直し、現状に即した計画作成を行っている。</p>		<p>利用者一人ひとりの心身の変化を月に1回は確認し、予防的な視点で検討が望ましく、合わせて家族の意見・要望を聴取し、計画に盛り込む取り組みが望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	個別の通院・買物・散歩・地 域の理美容院への同行に要 望に応じて個別に対応してい る。口腔ケアのための歯科 衛生士の訪問を受けてい る。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大 切にし、納得が得られたか かりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療 を受けられるように支援し ている	2週間に一度の往診を受け、 適切な医療を受けられるよ うに支援している。利用者 ごとの往診記録も整備され ている。利用者の希望があ れば今までのかかりつけ医 受診も可能となっている。 認知症専門医とは必要時 相談できる体制があり、併 設施設の看護師の協力によ り健康管理も行き届いてい る。		
19	47	重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から利用者や家族 等ならびにかかりつけ医等 と繰り返し話し合い、全員 で方針を共有している	終末までホームで過ごして いただけるように配慮して いるが、重度介護・医療が 必要になった場合は、家 族と十分話し合い特養・病 院その他への変更をするこ ともある。職員研修でター ミナルケアの研修は取り入 れているが、マニュアルは 作成していない。		重度化や看取りについて のマニュアルを作成し、 グループホームとしての 方針や対応について職員 の理解を深め、共通認識 を持つための取り組みを 期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は利用者に対して、礼儀正しくやさしく接し、利用者の尊厳への配慮が感じられる。個人情報保護やプライバシーについて研修を行い接遇については職員同士注意を促すようにしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームでの生活の流れは職員・事業所のペースにならないように、日々の生活の中で決まった計画は作らず、一人ひとりの希望にあわせ本人のペースで日常生活が送れるように支援している。食事場面を初め、生活風景の中で、利用者が穏やかに過ごされている雰囲気を感じられる。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>夕食のみ特養の配食を受け食事は朝食・昼食は、ホームで作っている。食事の準備・食器洗い片付けなど利用者の力量に応じて職員と共に行っている。利用者のペースで食事を楽しみ、職員は見守りながら、さりげなくサポートしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全性を考え時間は決めているが、利用者の体調・状況に応じて入浴時間を変更してゆくりと入浴できるよう支援している。羞恥心への配慮もなされている。可能な限り同性介助を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備・配膳・後片付け等ホーム内の役割作りにより、生活に張り合いがもてるよう細かい場面作りを支援している。また、カラオケ・法人敷地内の散歩、観音様へのお参りなども日常的な楽しみごとになっている。		利用者一人ひとりの生活歴から趣味や楽しみごとを把握し、継続できるように支援すると共に、日々の楽しみごとにも参加できるような機会の提供が求められる。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事で、季節や自然が楽しめる外出の機会を持ち、法人内敷地での散歩・希望があれば個別の買物への支援を行っている。できるだけ外気に触れる機会が作れるように配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全確保のために一部死角になる部分は施錠しているが、ガラス張りの共有空間と長い廊下が閉鎖感を緩和している。法人では、身体拘束排除の取り組みの明示もある。		職員が施錠することの弊害を周知し、可能な限り施錠せずに安全に過せる取り組みを期待する。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練は実施している。災害時の訓練は実施できていないが、緊急連絡網の作成、備蓄準備されている。		災害の種類別の具体的な災害対応マニュアルを作成し、職員全員への周知徹底が必要であり、マニュアルに基づいた実践的な避難訓練の実施を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定は毎月初めに実施し、食事・水分摂取量も概ね把握している。水分摂取はチェックリストを使用している。毎食後にゼリーをつけ脱水予防を行っている。		カロリー計算も定期的にも実施することが望ましい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・共有空間は花や絵画を飾り、落ち着いた色調でゆったりと落ちついた雰囲気である。広いガラス窓から自然光が差し込む共有空間は温度調整・換気がなされ、気になる臭いもなかった。キッチン是对面式で食事の支度をする職員の姿、料理の臭い等が、心地よい五感刺激となっている。広い空間・廊下に椅子を置き少数で過せる場所も用意されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に馴染みの家具等を持ち込み、落ち着いて過ごせるよう支援している。入居者の個性を大切にしたい、居心地よい居室作りになっている。		

は、重点項目。